



2・3年生が主権者教育で模擬投票体験

今年度の主権者教育は、7月10日(水)に大船渡地域振興センターから上田健登主事、住田町選挙管理委員会事務局より菊田洋一主事をお招きし、「明るい選挙啓発授業」と「模擬投票」が実施されました。普段の生活で感じる不便さ、困りごと、こうなったらいいのに・・・といった町への要望を解決するには、「選挙で一票を投じる」ことが必要です。講師の方からは、なぜ「選挙」をするのか?有権者としての役割などについてお話しいただきました。

模擬投票では、実際に使われている投票箱・記載台を使用しました。各投票所では、一人目の投票者に特別な役割が与えられています。それは、投票所の責任者が開ける投票箱の中をみて、「何も入っていないことを確かめる」作業です。公正な選挙であることを確認する大切なもので、「ゼロ票確認」と呼ばれています。今回これを行ったのは3年生の石川くん。しっかり役割を果たしてくれました。3年生には実際に投票所へ一番乗りし、ゼロ票確認を体験してみたいと思います。



「ゼロ票確認」の様子です→

受付と投票用紙交付係は2年生選挙管理委員の二人がお手伝い。2年生の新沼さんは、「初めての体験だったけれど、どうやって投票する人を選ぶかなどを知ることができた。興味を持てたので、実際に選挙に行ってみたい」、「17日の生徒会役員選挙では、今回学んだことが生かせたらいいと思う」とコメントしてくれました。(東海新報記事より)

←「開票」している様子です



沿岸連合の夏が終わる

7月13日(土) 第3試合 対 黒沢尻北高校
きたぎんボールパークにて

住田、大船渡東、岩泉、山田の4校で構成する沿岸連合が、きたぎんボールパーク第3試合で黒沢尻北高校と対戦しました。先攻の連合は、初回から9点のビハインドを背負う苦しい展開。二回、先頭の4番・佐々木友誠くんが右中間を破る二塁打を放ち、次打者の適時二塁打で本塁に生還、1点を返すも反撃はここまで。1対11(5回コールド)で敗れてしまいました。三回の守備から登板し、自己最速137kmの直球で相手打線を0点に抑えた佐々木友誠主将は、「1回戦を勝つことを意識して練習してきたが、序盤から苦しい展開だった。それでも、チームの仲間、後輩たちが頑張ってくれた」と、周りへのねぎらいの言葉を残しています。応援団も頑張りました、皆さんお疲れ様でした。



「生徒を真ん中にした学校づくり」宣言 ～本校教職員で取り組む教育をここに宣言します～

住田高等学校教職員一同は以下について宣言し、よりよい教育活動の推進に努めます。

- 再発防止「岩手モデル」～TSUBASAモデル～の理念と取組を理解し、生徒の人権を尊重した指導を行います。
- 本校が掲げる不適切な指導の根絶に向けた宣言のもと、同僚とチームで生徒の成長を支えます。
- 本県の未来を担う生徒の教育に携わる一人として、次のことを目標とします。



令和6年7月11日 住田高等学校

【各教職員の目標】抜粋

- 生徒一人ひとりが大切な存在であること、そして、生徒との**信頼関係の構築**が教育活動の原点であることを常に意識して教育活動にあたります。
- 生徒理解に努め、**個に応じた適切な言動**により、生徒の生きる力を育みます。
- 住田高校が生徒一人ひとりにとって「**安心・安全な学びの場**」となるよう、寛容な姿勢で多様性を理解し、生徒・保護者との**信頼関係を構築**します。
- 私は、教員が生徒の人格形成に大きな影響を与える責務を担っていることを肝に銘じ、常に**行動、言動、態度等が適切**であるよう努めます。
- 生徒の伴奏者として一人ひとりに寄り添いながら、**個が充実した学校生活を送るサポート**をしていきます。
- 対話**を大切にし、**生徒とともに学び、歩みを進める教員**を目指します。
- 未来を創る大切な人材である子どもたちを心から大切にし、**活躍と成長を支える教員**として真摯に職務と向き合います。
- 私は、常に自分が生徒を育むチーム住高の一員であることを意識し、報告・連絡・相談を欠かさず行い、**風通しのよい職場環境**をつくる一人として努めます。
- 生徒や教職員との関わりの中で学校生活や職場環境にある「何かおかしい」と気づく感覚を大切にし、客観的なものの見方や立場を心掛け、思い込みや決めつけによる対応をせず**生徒が相談できる環境づくり**を進めます。
- 生徒の変化をいち早く察知できるよう、**同僚とのコミュニケーション**を大切にし、協力して生徒を支えます。
- 生徒たちが「将来この学校で学んだ3年間があったからこそ今の自分がある」と胸を張って言えるような有意義な学校生活を送れるよう、生徒**一人ひとりの輝きを引き出せる支援**を行います。
- 学校の主役である生徒たちが、「高校」という舞台上で**自分らしく輝ける**よう、共に生きる大切な存在として育みます。

令和6年7月11日

岩手県立住田高等学校教職員一同

★下記の SNS でも「住田高校」の活動について絶賛公開中！どうぞご覧ください！

【Instagram】



【住田高校 note】



【Facebook】



【住高ハウス LINE】



住高ハウス〇〇

まるまる通信

住高ハウスの
情報をまるっ
とお届け！

7月4日(木)レクデー×国際交流 【令和6年度 台湾文化交流会】

台湾からボランティア活動を目的に来日された皆さんをお招きして住高ハウス〇〇で交流をしました。

中国語で1～10までの数え方、注文の仕方を教わってから中国語会話の実践！

生徒たちは慣れない発音に苦戦するも、本場のタピオカミルクティー、手作りのアツアツたこ焼きを自分で注文することができました！関西のソースと関東のソースの味の違いを、食べ比べつつ、

「クリエイティブたこ焼き」というゲームを盛り込んだたこ焼きづくりにも挑戦。3チームに分かれて、各チームで好みの具材を獲得すべく、中国語でじゃんけんにも挑戦。台湾の漬物、タピオカ、キムチなど変わり種もあり、大いに盛り上がっていました！

交流のプログラムの中には、3年生による地域創造学のアクション発表の場も用意。

住田の魅力を発信すべく、住田町在住歴の長い外国人の方に、住田の魅力をインタビューしてまとめた動画作成を行った男子生徒。その生徒の保護者の方も参観するなか発表となりました。

「1年生の時から見えていたので、より成長を感じました」「作成した人の個性や魅力が伝わる作品ですね！」など、あたたかいコメントをいただく場となり、今後は動画のブラッシュアップの参考としていきます。

また、子供の頃からやっている合気道を、もっと知ってもらいたいとして、合気道の普及をテーマに活動する女子生徒は、参加者に向けて、合気道の成り立ちや歴史などをプレゼン。特に台湾チームの皆さんは初めて知る内容ばかりで、質問が飛び交い、貴重な異文化交流となりました。

今後も住高ハウス〇〇では、レクデー×国際交流の機会をご用意してお待ちしております。

次回は住田の美しい自然、清流をフィールドに、すみた森の案内人さんによるレクチャー・砂金とり体験を企画しています。そこにも香港からゲストをお招きしますので、お気軽にご参加ください。



地域創造学のプロジェクト也大詰め！3年生のアクション紹介

自分がケガをして、理学療法士さんや柔道整復師の方からケガの予防法や正しいストレッチを教わり、効果があったことから、母校の中学生にも、その重要性を広めて、より良いスポーツ活動をしてもらいたいとして、アクションする女子生徒。住田町社会福祉協議会の理学療法士さんにレクチャーをいただきながら、町内の小学生、町内企業の外国人技能実習生さんを対象にストレッチを教える機会を持つてきました。7月4日(木)、7月11日(木)、7月17日(水)の放課後、今年度から世田米中学校と有住中学校が統合し、母校での実施とはいきませんでした。新設校の住田中学校でのストレッチ教室の開催。校長先生をはじめとして、研究主任の先生、当時お世話になっていた先生、テニス部生徒の皆さんの協力のおかげで、無事実施ができました。

大船渡の魅力を知り、発信するプロジェクトに取り組む男子生徒。最初は基石海岸の魅力に触れ、大船渡市以外から通学している友人に紹介してみるアクションからスタートしました。

ラストアクションでは、特にも大船渡の食に着目。有名な大船渡のさんまの知識や焼き方の技能を学ぼうと、大船渡市観光物産協会主催の「大船渡市のさんま焼き師認定試験」の7月13日(土)の実技講習に参加。7月14日(日)には学科講習と学科試験を受験。今後は今回試験を通して得た知識を活かし、自らもさんまを焼いて、友人や家族にふるまってみよう。



住田高校は オンライン学校説明会・個別相談会をスタートしました！

中学校3年生の皆さん・保護者の皆様は、進路選択において、悩みの多い時期をお過ごしのことと思います。住田高校では、学校見学を受け付けておりますので、直接お越しいただき、学校の雰囲気をご覧いただければ嬉しいです♪入学後の学校生活の不安や疑問な点も説明致します。

住高ハウス〇〇の見学もあります。私達教育コーディネーターも対応致します。必要とあれば、生徒・保護者向け個別相談も実施可能ですので、どうぞ、お気軽にお問い合わせくださいね♪

事前にお電話での予約

または右のQRコードからお問い合わせください

問合せ先 岩手県立住田高等学校担当者（副校長）：三上浩永

（電話：0192-46-3141 FAX：0192-46-3144）

